園寺鷹歌一百首

へ4
2959

虛堂文庫

鷹百首　後西園寺入道前太政大臣實益公

西園寺　相國公經公

鷲の山のあさぼらけのきりもせよ法のそらけむる
ほさるとも食物を求願之一切人畜に通ふ
我力とたのむも凡鷲の身わたりとうれてのそせよいさまふ
けりまてと雖之ふけく過ぬれてくこひまてらと
但一度過ぬとも云過しもせむるとも申し
うてうこ雪のさくすの江とうてうものうこ世ようをとくさ
待の初とうもてこ
わしの鷲のそいかろ雪れ（てい）ゝかゝ地方のつひさい
ひしとしとたわしと云ゝ私有まりきれと云

虛堂文庫

人元

世中に為ーとうれぬもの一鷹のえそひきてらわんよいさよ
為ーとも八絶ふみーて敷さぬと云こんーなく
て捨ける世ー嘆ふこ九へとの長さハ二十弱ふり
但南流ハ二十弱ふたてね前のくりかを
こまと山ひとよ出と人も見よ弱ふたてね前のくりかを
待ふしてそのまてこ海ふとこまや山と云こ出貢
あーて河を懸とたてねまハ待ふ出く山ー舎
そりと人も見ふ世云義ふ宿山イ出ぬ云り
ふ為と第ふ見ふまふ待人の拍ふーてふハ口ふのうち
けふ為ふ大ふ鷹河ふハ喰ふ為の事ふ人待敷ふを

ゆてふ弟ふまふかふ這事ふわり出敷ふ
為ーぬなーふ貢ふ鷹待ふ弟ふ為ふと九
山せられふあふーふ云ーやふく待の人教ふえて
待ふ出とやふふ為ふ為わりふの人為ふ鷹て三敷ふ
弁のけふふ貢敷ふ線ふわふれさふけふ拍なふ敷ふ敷ふハ
為ふと云れふ法ふれふふ待の為ふけふふ敷ふ世ふハ為ふぬ
待の為ふイ世ふハイ世ふやイ
さふふ事敷ふ世ふとふふ天ふ人ふ為ふ為ふ法ふを
かふふふふふ世ふふ天の為ふ為ふ天の心ふめふ為ふ
世ふふ為ふ為の法ふ為ふ為ふ為ふ為ふ為ふ為ふ為ふ

附袋ゝ兎のゝ[illegible]ゝ名のゝくひと付る事もしらい
たりゝ名ゝとゝすゝる事ハ実なれゆへゝ歌を
結て看ゝせゝしゝといゝるとゝれゝゝゝ附袋の
装束ゝすゝる

こゝの山の歌ゝたのもとゝゝ[illegible]ゝこの待の名さへなりゝ

米山ハ交野の門の別荘ゝゝ[illegible]ゝせてます
かさねとは合ゝゝ鳥ゝてもゝくの山ゝゝゝゝと
なりと歌ゝゝゝゝハ[illegible]れハ遠物ハ[illegible]ゝ一文字ゝ
ゝくの山ゝ[illegible]て鳥とれとゝやんのゝゝゝ
なりハゝゝの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
れゝ歌と一文字ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝハ心ゝゝくゝのゝゝゝゝ[illegible]ゝ推の木原と[illegible]の木原の木原と云事
ゝ推の木原と[illegible]ゝ事ゝ但推さ木同前の紙の名
めゝ書のせて[illegible]ゝ
ゝゝ事ハゝゝこの待ゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
鳥ハかくゝて[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たすけハ尾の名こ終付の尾のてれかさひし得衣こハ
かりふ出る所の歌こ
附袋ゝ入れハきそる名ときゝ附てゝ月をきゝ方こそ捨えね
あてゝろと人のゝこ人ゝたりハけすゝもとき附と入さりハ
ゝまふ事こ附てゝろよりゝこをハさとく云こもりゝ
源正頼ゝ小山の名こゝ女と思ひゝり野へ出る所ゝ
女のゝこ人ゝりこく附山てゝろとゝたりゝ人れハ女雁
の儲とゝりゝ有所ゝ為ゝ為とゝりゝてゆゝ
て附袋ゝ入れゝ入ゝたりゝ人れ女ゝ入ゝたりゝ人ん
所こゝ月ゝの雁の附袋ゝ入ゝとき雁こ月ゝてゝ人ゝ入ゝ
こ詠ゝて女ゝ入れハ入ゝたりゝ為ゝ入ゝ入れゝ

ミイ
ゝ為ゝ入ゝこ和や五文字の心ハ妻
為ゝ入ゝこ和ゝ入ゝ為ゝ出ゝ入ゝ山ゝ入ゝ為ゝやゝて為ゝ入ゝき
ゝ為ゝ入ゝ雁ゝ為ゝ入ゝ為ゝ入ゝ雁ゝ為ゝ入ゝ為ゝ入ゝ為ゝ入ゝ為ゝ入ゝ
ゝ為ゝ入ゝ為ゝ入ゝ為ゝ入ゝ為ゝ入

たりけるとぞ昔の人の村河内にいりてかりをり
ける日とりひ今日をされりゝ待とれわりけの鶴のわくらくは
わけ若鶴と為年の鶴と網をうけて死鶴の
但りちゆくもされ若たりといわりけとやなりハ
せりもの赤もものたりと云事わり只毛赤さし化
逸地と赤鶴とやり事わりむりゝ母と鶴るよ
られて毛紅に成て終に鶴と死ちりそり
色と紅の鶴ちとやなりと赤鶴ちとやなを
志とく云たりわり白鶴年かさなれいうと紅梅
に成と志とくやりこの白と同事にるの赤わり
そのまゝに色山鶴のちくりとのちくしとかる鶴ちるまひ

肉たりくて鶴とんりに成さ肥そろと関のち
きとやりこと屋せちりとい肉とひくとやこ
大せちり鶴とて せむる鶴るれ若よりもふさと辛ちを
わまちる鶴やすませて法ちふ鶴ちの白ちの丸も別しひ
島屋ふむとい友鶴やりに事こ卯月八日に
へて七月廿日に出ちこ十四日の生夫の箸と候松
みて秋出生こゆちり鶴ちとやり一説こ羽州國
に出ちくいとれわり鶴と云字と紫鶴ちとに
竹藪に出生ちとやくいとれ鶴ちのこ
鶴ちとやくいとれ鶴ちとやくいとれ鶴ちとやくいとれ
鶴ちとやくいとれ鶴ちとやくいとれ鶴ちとやくいとれ

いさき寄るよりの大寄るよりいさき縄にて平石の縄
ちかくに小寄ハ安くて下ものにうハさ所地こ
能なりとたのうらうとりとされて弱なるなる時のうと人
はうひかれる寄大のうとん初くるとと言へさ
根ゑ根舞へたう所ていとこと
俳袋にてこわりとゆるかりとの寄はくよん
こわりとい寄くこのくくくてわはくわるるこ
かりよ出ろ能りりこの小寄るるとかさと神ものと寄そこ
出つけふ取くく大とかこうろ山口ほくるいるくう
出はそこ取くく同事こうこうろんよへてか
むくこ山口こ山口の神ともん祭て大とへほこ山

能と祭ほこ
なるくふ根ちゆんふ寄ほ持鶴の寄いはもふくこと
こまつさよはこ一ちにれりひとと年初てはこふりさう
一ちとこ一度ちとれりとて治てるとと根ち
ちひ
ちゆの鶴ちはんん寄このむちの長ちとこそて
島ゆといちたているちくこと三度ちはこ
寄見こはちはゆくへき山の寄ちよ人と寄て
島はのりうこと見んはちも 私流ちは大伯
う二鶴ちるちくこと云てはせこう一ちるちよ
と云合て三鶴こと共流ハ見ちくこと計こ
のれえは雑のくまも長ちりりて秋ちこと山の下寄

かり枝い得の枝こ雪所ハ葉の端とゝりり
くゝて切と有ハ同のとゝりこゝゝて切ゝ
雪原さうゝ所の葉みりてゝまゝゝの雪の面ゝりゝる
ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

地の事ゝ折領袋ゝ共折領とへ袋ゝ
かゝ也とゝ[illegible]れ[illegible]ゝ其ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
其ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]

山のみねとりあつまりてうかれうたふこゑ
さてさてこれはいかなえの花とやらん事と　れいこれはえ
とはいとわれてりの事と云云　はつ雪の事と云云
こうとしてすがるかの所歌さうとてこゆの鷺の羽
ゆきうるとしい山のみねきはの事と歌さいしゆ
やまとりてこゆとはいたりかくまんと
こかてはかなくゆきとすりてこゆと鷺もふ
うたうと鳥うりさてこゆんと羽うきて
とはたの羽右羽とくさたの羽とうち春の羽と
うり事と
合りて鷺と合て歌つきたてつくりて内侍人

のそうへてこやまとはみとうたうとはのそ
のそうくしいるれとうのそくるとれるを
れ侍人歌さうれ若鷺山のうれはすくみよりても
歌さうまとしい山りて当りくもとうへて年と
とへたうとうの事と黄鷺はは百年の鷺ひり
歌ひくそうちうと巣りと出てなの時ひり
こなるかくそうちうとは巣鷺るとはしいと歌
年かれた若鷺るとはしさと
とかへてそこくこうとはとうの侍人の事の唱
宇多歌はれ別こ

主志ゝ山の野さゝれ若菜ゝ山ゝ山ゝ山ゝ日をさまる
賀編とゝ云ゝ若菜ハ巣菜ゝゝゝゝゝゝ
ゝけ菜も為ゝ所拾ゝ若ゝ山の雪にたまゝゝ菜のわさゝ風
わさ風い隼の矢名ゝ清ゝゝ晨風ゝ云ゝ
鶉ゝ名ゝ田の松野の菜落ゝのゝゝゝゝゝゝ
山ゝゝゝゝ山待ゝ
山待ゝも為ゝ為ゝ松ゝ
松の枝ゝゝゝ菜ゝゝ付ゝゝ
たゝゝゝの角ゝ松ゝ
たゝゝゝゝゝ
為ゝ松ゝ云ゝ

ゝゝゝゝの世ゝゝゝ風琴草の左の柱ゝゝ
のゝゝゝゝゝゝ右ゝ男ゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ本ゝ左の柱ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

又作まこの秋の小雪の芽よりうえやあらひのの浜出のうち
芽よりとしい芽よりこの同前芽よりとるこ
はるかに[illegible]ふ新たに[illegible]るとうけて大雪とうけ
一つもひとつもなれば遠さ海の新しまてうの小田のうり
あたらなとこ[illegible]ひとつ敬之一つもとこ二合をつの
一つも二つもすくなくもとこ[illegible]又初て大雪
とうけて合ひとう敬とこ[illegible]の大雪のと
敬とこ[illegible]初てはこ[illegible]小雪かりつめこ指と
かりてとこ[illegible]こ[illegible]新しうの多くわつもり
て喰とうとこ[illegible]の新とこ[illegible]秋こ大雪より
か紀国こ秋雪の新こ秋冬うけてこ同小雪

の後
なれ上こ新の秋たのこ[illegible]たてる落の人とまつ
秋こ[illegible]新雑諸島同事こ
こ雪の末雪とうこうり秋こ[illegible]ようけ[illegible]秋こ
同前
秋こうすとうむ萩女郎花唐すへ人とこ[illegible]の多く
雪やかたちとこ[illegible]新一ひつこ[illegible]とこ[illegible]
こ[illegible]こ[illegible]事あり[illegible]ようこ[illegible]萱こ[illegible]
てわうり[illegible]こ秋こ
玄蕃こ[illegible]の玄蕃のうち夜花こ[illegible]こ[illegible]秋のこ
玄雪の子とこ[illegible]秋こ[illegible]秋

の巣兒鶏と申し鶏の子を兒鶏兒鶏と云
育れまかやメ山にて生れ成る鷹の名を三栗すて
やメ山場にて生る鷹を名付て三栗すて
かくとやすて日の初りに待たてく合ると
きとくまりとまる夫のれ鶏なれ鶏なれ鶏なれ
なるり落てきとはまりとりをはまりしへ
きとはり有と申しこ
笠の上り上毛下毛と白ときてりこの形えの祭
鳥と名付れ鳥れ鳥れ鳥のもあれはひと丸
下毛とくく尾の上り上きとこ云名のくくなる
もとはきく山の神と奉る事と雄り鶏と

大鷲小鷲はきもろ
氷る雪のうちにて名付ひ谷門乃水
狩りうる狩りこの出り狩りて狩まりて
出中と山のかくりもくくて出ると名たて
それ人出りへいまりてうと名とけく
まとこ
むとこ谷水なくおしの宮とてきて鷲やうはまり
鷲名とこれとかかくとと水とけて名の西の
くさきと失ひあ山と波と イニハ名付きとは
てあり
宮あてかくと落りこむ山の毛むりに落て

鳥をあつめ山猫にあまりしかるとて
しるとゝ申しものちりをもむとゝ申しに言葉に寄る用
のうつりゝ所事
山びこもあるとゝ申わらわ為祖の言葉に寄るわりて
わるとゝ為といふと寄足してわて為をこ
大河のほとりにて狩をせんとす人々寄るそいわてみる
大河大の振舞とも見てくる鳥のわかと知くるを
長ノ人ようくとこ云こ見とやとこ多とゝ申ふり
こうもてい怨こ
たてこい
ちくるとゝ申こ寄ふ事まりとゝとそひよ寄るそちり
空とろとゝ氏池ノ為さとして死こ　て空とろ

為うつ事ゆとれいかゝて人為てこるそ用をそれて
大河なくく寄るとゝ申ゝ事ゆとそ
大河なくくといふるありと大のこるすこ寄るや
見ゆといふのよゝ為大と寄るとよわひてせ
ひとなくて事ゆこ
死ゆきこるといそいかなく（時刻）ちこのむ山ノり
世界ハ事ゆこあるこ島の事こ寄るこ寄るこ並て
事ゆあるこいとゝれ所ノ地地の寄の死を
ちくとゝ事ゆこ事ゆこ対て為るとゝ
事ゆなくひて所事ゆこ
死為こ見れいかくゝ

わゝはゝくゝふすらんわゝ雪の庭のうへもものひとの
わゝけるゝまよりなりてゆくゝまの所ゝあるゝを
ゆくゝへむとゝゝ
尾のゝゝさいつの雪に結ゝれてゝまわゝにたゝるゝを
ゆゝうゝれてゝとゝ遠くゝ花ゝゝ事ゝゝ雪ゝ
ゝゝ落ゝゝうゝゝまゝよゝ入事ゝ
のゝゝ所ゝゝゝゝまゝ庭の雪のゝ所ゝきゝゝゝれて水鶏花
のゝ所ゝゝゝゝのゝ所ゝゝゝゝ所ゝゝゝゝ花ゝゝゝゝ
社頭の叶ゝゝゝゝ

かりとハ早船より伏そろゑと待こなしの為待ハ
用といとさらなり
船はなの上にてふと落ちけり鶴なまじきさま立てり
去の所に松の一文字ありてさうしやうと見ま
ほしき
若葉茂りて
若葉茂りてうぐいすこわりさうに
若葉茂る
沙汰なし
大の沢にてふかもて待敷のかりやうまでかゝるをぬるる
喜見寄ぬと喜ぶ小合せにや寄られ人なふと
ぬと喜ハ人なりと寄にて陽て新なりと可ゑ
寄ふかの秋の船の小寄うり六月中神ハ荒り死とり

もり寄のこもはちまきの一すりさるもさるなも面白の羽や
ことはちことえとハ寄と寄るとこなるうれさへ
見越ふ所こもとわゝ地の越はかるとゝ嘆て云り

寛永拾三丙子年正月日